



横山 素子 議員

問 安心な子育て環境の拡充は

答 多様なニーズに対応

Q 働きながら安心して子育てできる環境づくりの点からも土曜日・日曜日の保育の充実も必要になってくるのでは。

A 町長 時間外保育は地域性や保護者の実態などを考慮し実施している。今後、指定管理による運営も含め、多様なニーズに対応できる体制を整えていきたい。

Q 現在神石地区のいずみ保育所だけが土曜日の一日保育が行われているが、町内全保育所で取り組むべきでは。

Q 福祉課長 保護者のニーズがあれば環境整備をしていきたい。

Q 子育て世代の保育料の負担はかなり大きいが無料化についての取り組みは。

A 町長 平成24年度保育料は総額で3500万円程度見込んでいます。今後は指定管理による経費節減などを考慮し「地域全体で子育てをしていく」との合意形成を図り無料化へ向けて条件整備を進めたい。

Q 統合中学校の進捗状況は。

A 教育長 全体的におおむね計画通りの進捗状況だ。設計については基本設計を終え詳細設計を行っている。用地確保も順調に進み補助事業の手続きも計画通りである。

Q 地元関係者への説明状況は。

A 教育課長 建設地である油木地区の各種団体に統合説明や協議を行っている。

Q 地域からどのような意見、要望が出たのか。

A 町長 門田原地区での説明時に、ライスセンターから出る粉じんの問題が出た。教育委員会でも対処する。

Q 粉じんの調査の方法は。またその結果は。

A 教育長 集じん機による調査は行っていないが、近隣の住民への聞き取り調査を行いその結果、全く飛んでいないとはいえない。

Q もっと詳しい調査研究が必要だ。生徒たちが快適な環境で授業を受けるためにはライスセンターの移転も視野に考えてみるべきでは。

A 町長 集じん機による完全な粉じん除去ができるのか、あるいは移転をしたほうがいいのか、双方をよく検討して、判断したい。



いずみ保育所発表会



赤木 俊二 議員

問 ナマズの産業化は

答 どう加工販売に繋げるか検討中

Q ナマズを我が町の産業として商品化・販売の可能性を調査し、取り組む計画は。

A 町長 ナマズの場合は市場がない。どう加工販売ができるか考えている。ナマズの蒲焼や加工すり身でかまぼこの製造など総合的に検討中である。

Q 商品化には時間とノウハウが必要。町として道筋をつけ、油木高校に商品開発の依頼をし、マルシェなどで販売出来るか。

A 町長 ナマズの産業化は動き始めた段階という認識でよいのか。

A 町長 採算ベースに乗せることが大切であるが、現在暗中模索の段階である。

Q 商品化はアドバイスを受けながらやっている。売れるかどうかについては町ではノウハウを持っていない。商工会と検討しながらやっているが、商品として販路拡大が課題だ。

A 町長 例えばかまぼこの生産をして市場で販売できる可能性があるならば第3セクターや若者が起業していく方法もある。まず商品化が可能かどうか専門家聞いて間違いのない選択をしたい。



油木高校 ナマズ天井販売（フードフェスタにて）

Q 中央自動車道のトンネルで天井落下事故があった。長者ヶ原トンネルは構造的に大丈夫か。このトンネルの改良を緊急課題とし県と交渉を。

A 町長 財源不足により出来ていないのが現実。23年度ボーリング調査。24年度には用地の買収。26年度には着工の見通し。

度には着工の見通し。県の建設事務所から3案の提案がある。工事費は高額になるが、安全に配慮したものをお願いしている。

平成12年度に全面改修しており強度については道路構造令の基準を満たしている。



長者ヶ原トンネル

Q トンネルから斎場区間の拡張工事の見とおしは。

A 建設課長 区間的にはトンネルから150m手前まで改良を含めて行う。最終的には27年度になる見通し。

あなたの声を町政に

質問時間は、答弁を合せて一人二時間以内で一問一答方式